平成3年度JHLカップ
各ブロックとも大激戦を展開

JHLカップ
西地区男子：大同特殊鋼
東地区男子：中村荷役
西地区女子：ジャスコ
東地区女子：シャトレーゼ
が制す

西地区男子
（6月28～30日／湧永製薬体育館）

▼リーグ戦
湧永製薬 22－21 大同特殊鋼
湧永製薬 33－19 竹芝精巧
湧永製薬 31－10 大阪ガス
湧永製薬 27－14 日鉄建材
日新製鋼 16－14 湧永製薬
日新製鋼 34－24 竹芝精巧
日新製鋼 30－12 大阪ガス
日新製鋼 34－12 日鉄建材
大同特殊鋼 24－19 日新製鋼
大同特殊鋼 31－15 竹芝精巧
大同特殊鋼 26－14 大阪ガス
大同特殊鋼 37－12 日鉄建材
竹芝精巧 20－18 大阪ガス
竹芝精巧 27－21 日鉄建材
大阪ガス 27－19 日鉄建材

〔順位〕①大同特殊鋼②湧永製薬③日新製鋼④竹芝精巧⑤大阪ガス⑥日鉄建材

東地区男子
（6月27～29日／太田区体育館）

●予選リーグAブロック
大崎電気 23－22 トヨタ自動車
大崎電気 32－11 豊田自動織機
中村荷役 23－18 大崎電気
中村荷役 29－17 トヨタ自動車
中村荷役 26－17 豊田自動織機
トヨタ自動車 29－15 豊田自動織機

〔順位〕①中村荷役②大崎電気③トヨタ自動車④豊田自動織機

●予選リーグBブロック
三陽商会 25－18 三景
三陽商会 27－23 日本電装
三陽商会 30－21 トヨタ車体
三景 26－16 日本電装
三景 26－22 トヨタ車体
日本電装 28－18 トヨタ車体

〔順位〕①三陽商会②三景③日本電装④トヨタ車体

▼7位決定戦
豊田自動織機 21－18 トヨタ車体

▼5位決定戦
トヨタ自動車 27－22 日本電装

▼3位決定戦
大崎電気 31－14 三景

▼決勝
中村荷役 23－22 三陽商会

〔順位〕
①中村荷役
②三陽商会
③大崎電気
④三景
⑤トヨタ自動車
⑥日本電装
⑦豊田自動織機
⑧トヨタ車体

西地区女子
（6月28～30日／オムロン体育館）

▼リーグ戦
ジャスコ 22－22 オムロン
ジャスコ 35－18 大和銀行
ジャスコ 30－19 北国銀行
ジャスコ 20－13 ブラザー工業
ジャスコ 28－18 ソニー国分
北国銀行 24－23 オムロン
大和銀行 2[illegible]－16 北国銀行
北国銀行 18－17 ブラザー工業
北国銀行 31－19 ソニー国分
大和銀行 20－20 オムロン
大和銀行 16－14 ブラザー工業
ソニー国分 22－18 大和銀行
ブラザー工業 16－15 オムロン
ブラザー工業 26－17 ソニー国分
オムロン 23－13 ソニー国分

〔順位〕
①ジャスコ
②北国銀行
③大和銀行
④ブラザー工業
⑤オムロン
⑥ソニー国分

東地区女子
（7月6、7日／日立栃木体育館）

▼リーグ戦
シャトレーゼ 19－14 大崎電気
シャトレーゼ 20－17 日立栃木
JUKI 22－21 シャトレーゼ
シャトレーゼ 24－13 ムネカタ
日立栃木 24－16 大崎電気
日立栃木 19－16 JUKI
日立栃木 23－6 ムネカタ
大崎電気 19－17 JUKI
大崎電気 27－18 ムネカタ
JUKI 21－16 ムネカタ

〔順位〕
①シャトレーゼ
②日立栃木
③大崎電気
④JUKI
⑤ムネカタ

本田技研鈴鹿が初優勝を飾る

第32回全日本実業団選手権男子の部は、5月17日から19日までの3日間、大阪市中央体育館に12チームが集合して熱戦を展開した。

今大会V3を目指した湧永製薬が準決勝で敗退、本田技研鈴鹿が決勝で大同特殊鋼を降して初優勝を飾った。

本田技研鈴鹿が大同特殊鋼を破り初優勝

▼1回戦

本田技研熊本 19 (6―8, 13―6) 14 トヨタ車体

三陽商会 33 (16―11, 17―6) 17 日本電装

日新製鋼 30 (16―6, 14―9) 15 三景

▼2回戦

中村荷役運輸 29 (12―9, 17―9) 18 トヨタ自動車

湧永製薬 33 (14―6, 19―7) 13 本田技研熊本

大同特殊鋼 27 (13―6, 14―14) 20 三陽商会

大崎電気 22 (12―7, 10―8) 15 日新製鋼

本田技研鈴鹿 18 (7―6, 11―7) 13 中村荷役運輸

▼準決勝

大同特殊鋼 27 (16―8, 11―13) 21 湧永製薬

本田技研鈴鹿 15 (11―9, 4―5) 14 大崎電気

▼順位決定予備戦

三景 20 (8―6, 12―5) 11 トヨタ車体

トヨタ自動車 27 (14―9, 13―13) 22 日本電装

日新製鋼 29 (14―5, 15―10) 15 本田技研熊本

中村荷役運輸 26 (11―9, 15―7) 16 三陽商会

▼11位決定戦

トヨタ自動車 27 (16―5, 11―10) 15 日本電装

▼9位決定戦

トヨタ自動車 26 (15―7, 11―10) 17 三景

▼7位決定戦

三陽商会 23 (14―10, 9―9) 19 本田技研熊本

▼5位決定戦

日新製鋼 18 (5―7, 13―10) 17 中村荷役運輸

▼3位決定戦

大崎電気 20 (8―6, 12―10) 16 湧永製薬

▼決勝

本田技研鈴鹿 25 (12―3, 13―9) 12 大同特殊鋼

[戦評] 前半立ち上がり、本田が福村のシュートで先制する。その後、内藤の速攻で2点目をあげ、本田が優位に試合を進める。この大会6年ぶりに決勝進出を果たした大同も懸命に反撃を試みるが、本田GK橋本の好守に阻まれて点差を詰めることができない。結局着々とリードを広げた本田が12―3と大差で前半を折り返す。

後半に入り、大同も速攻で反撃するが、本田もがっちりと守り、中盤には逆に14点差とリードを広げて初優勝を確実なものとした。

得	[本田]		[大同]	得
0	高木	GK	秋吉	0
0	橋本	GK	林	0
1	藤井	FP	内藤	2
3	立木	FP	高村	1
5	福村	FP	朝生	2
5	内藤	FP	畑	2
0	大塚	FP	盧	1
0	梅基	FP	名取	2
3	田口	FP	宇多村	0
2	平松	FP	末岡	0
5	山村	FP	佐藤	2
1	香西	FP	阿萬	0
25	(2)	PT	(0)	12

審・井上・島崎

第32回全日本実業団選手権（女子の部）

ジャスコ、感激の初優勝

第32回全日本実業団選手権女子の部は、5月17日から19日までの3日間、愛知県体育館に12チームが参加して開催された。

全日本メンバーの欠場問題等で波乱の続いた今大会だが、決勝戦はジャスコ対ブラザー工業という日本リーグ二部チーム同士の対戦となり、1点差でジャスコが逃げ切り、初優勝を遂げた。

▼1回戦

日立栃木	20	10－6 / 10－7	13	ソニー国分
ブラザー工業	25	16－5 / 9－6	11	松下電工
オムロン	22	15－7 / 7－8	15	JUKI
ジャスコ	29	15－7 / 14－4	11	ムネカタ

▼2回戦

大崎電気	25	10－10 / 15－10	20	日立栃木
ブラザー工業	31	14－9 / 17－8	17	大和銀行
北国銀行	25	13－6 / 12－12	18	オムロン
ジャスコ	22	10－12 / 10－8 / 1－0 / 1－2	22	シャトレーゼ
	3	PTC	2	

▼準決勝

ブラザー工業	23	11－6 / 12－12	18	大崎電気
ジャスコ	20	8－13 / 12－6	19	北国銀行

▼順位決定戦

ソニー国分	18	12－8 / 6－5	13	JUKI
ムネカタ	18	10－7 / 8－4	11	松下電工

▼順位決定2回戦

オムロン	18	6－6 / 12－6	12	日立栃木
シャトレーゼ	15	8－7 / 7－4	11	大和銀行

▼11位決定戦

JUKI	26	10－2 / 16－3	5	松下電工

▼9位決定戦

ソニー国分	22	13－5 / 9－6	11	ムネカタ

▼7位決定戦

日立栃木	23	13－12 / 10－7	19	大和銀行

▼5位決定戦

シャトレーゼ	19	10－8 / 9－7	15	オムロン

▼3位決定戦

大崎電気	21	12－10 / 9－9	19	北国銀行

▼決勝

ジャスコ	23	11－9 / 12－13	22	ブラザー工業

【戦評】日本リーグ二部勢同士、しかも同じ東海地区のライバル同士で互いに手の内を知りつくした相手だけに、1点を争う激しい決勝戦となった。

前半はジャスコの速攻が決まって優勢に展開、一時は11－6と5点のリードを奪う。しかし、ブラザーもじりじりと追い上げ、後半7分過ぎには遂に12－12と同点に追いつく。その後一進一退の展開を見せたが、終始ジャスコが先手をとった展開で、残り1分、ブラザーは1点差に迫ったが一歩及ばなかった。

［ブ工］

得	選手	
0	岡本	GK
0	喜多	GK
7	荒木	FP
2	末永	FP
1	小栗	FP
0	野田	FP
3	藤江	FP
6	進藤	FP
3	甲斐	FP
0	高木	FP
0	畑中	FP
0	三好	FP
22		PT (2)

［ジャ］

得	選手	
0	小林	GK
0	長谷川	GK
4	今井	FP
3	東出	FP
8	勝島	FP
1	稲田	FP
5	川井	FP
0	飯田	FP
0	成澤	FP
0	徳永	FP
2	土師	FP
0	松村	FP
23		PT (5)

〔審・内藤・川合〕

決勝はジャスコ、ブラザーの対決に

●全日本女子ヨーロッパ遠征から帰国●

1ヶ月間の遠征で多くの成果をあげる

オリンピック出場を目ざして日本ハンドボール界にとって史上初ともいえる長期合宿を行なっている全日本女子チームが、5月20日から6月23日までの約1ヵ月間、ヨーロッパ遠征を行ない、ノルウェー、チェコスロバキア、オーストリアで合宿、各地で数多くの試合を行なって多くの成果をあげて帰国した。

ここに遠征に参加した全日本女子チームのメンバーによるレポートをすべてご紹介するとともに、彼女たちに声援を送りたい。

ノルウェーにて

小池美由紀

1ヶ月間という長い遠征の始まりはノルウェーからでした。

1週間滞在して、その間に5ゲームほどしました。一応ノルウェーのナショナルチームだったのですが、向うはナショナルの年齢層が広く、私たちがゲームをしたのは20歳前後のメンバーでした。

対戦してまず感じるのはパワーの違いで、ディフェンスをしていても弱い当たりだと引きずられたりふっとばされたり……という具合です。スピードという点ではあまりあるとは思わなかったのですが、とにかくパワーの差は感じました。

私たち日本チームの方は、コンビを組んでまだ日が浅いということもあったせいか、ミスが多かったように思います。だから、ゲームの内容的には勝っていても、大事なところでミスをしてしまい、それが負けにつながるということもありました。

5ゲームを通して、（うち、1ゲームは男子のジュニアチーム）はじめのうちはやはりコンビもなかなか合わずミスも多かったのですが、ゲームを重ねていくうちに、少しずつではありますがチームが一つになっていったような気がします。現に、ノルウェーでの最終戦では、コートの中もベンチも一体となったせいか、勝利をものにすることができました。成績の方は1勝4敗でしたが、チームのムードも良く、チーム状態も上向きだったので、ノルウェーではまずまずだったと思います。

その他に感じたことは、どんなゲームでも観客が多いということです。やはり見てくれる人がいればやりがいもあるだろうし、とてもうらやましく思いました。いいプレーをすれば敵味方関係なく拍手してくれるし、ああいう中でゲームができたのは幸せだと思いました。

1ヶ月の遠征を振り返って、はじめに比べるとずいぶんとコンビも合ってきたし、チームのムードもいい状態で終えることができました。アジア予選まであと2ヶ月弱となりました。今のいい状態を保つと同時に、さらにチーム力をアップできるようにして、今回の遠征が無駄になることのないよう頑張りたいと思います。

市来　未央

1ヶ月間のヨーロッパ遠征で最初の国がノルウェーでした。ノルウェーのナショナルチームとは5ゲーム行なったのですが、そのうちの1ゲームは男子のジュニアチームとしました。メンバーは全員私たちよりも若かったので驚きました。ゲームではまず体格、パワー、そして何よりもレフェリーの違いにとまどい、なかなか自分たちのペースをつかむことができません、でした。体格やパワーの差は仕方がないのですが、レフェリーは日本と違いとても攻撃を重視するので、ディフェンスをしていても自分たちが勝手に判断してしまい相手に押し込まれてしまうというケースが多々ありました。相手チームはレフェリーを利用するのが上手く、小さな反則でも大きな反則にみえるようなプレーをしていたので私たちもレフェリーの癖を早く知ってそれをうまく利用できるプレーをして行きたいと思います。

3戦目ぐらいまではコンビもあまり合わなくて相手のペースでゲームが進み、得点はあまり開かなかったのですが、勝つことができませんでした。

ディフェンスは一線と1・5体形を使っていますが、ゲームでは1・5を使うことが割合として多く、ロングシュートに対するつめがうまく行き、1・5が正解だと感じました。攻撃面では、フォーメーションを何度か試してみたの

ですが、なかなか個々のタイミングなどが合わず、ゲームにうまく使えたものとまたそうでないものもありました。
　初歩的なことだけれどいかに相手のディフェンス体形を素早く読み取り、対応して行くことが課題になりました。しかし、4戦目に勝てた時は本当に嬉しかったです。遠征に来て初めての勝ち星だったし、やっと歯車が合って来たと感じました。
　アジア選手権で戦うチームは、また、ヨーロッパチームとはタイプが違うと思いますが、ゲームに勝とうという気持ちは同じだと思うので、この経験を無駄にしないためにもチーム一丸となって行きたいと思います。

松澤祐子

　全日本女子ハンドボールの長期合宿が、4月から始まりました。これはハンドボール界初の試みだということで、期待と不安があったが、1ヶ月半のトレーニングを終え、ヨーロッパ遠征に行くことになりました。
　4月からの合宿で、陸上トレーニング、ウエイトトレーニングなどの体力的トレーニングも積んで、ヨーロッパでどんな試合が出来るのか期待して、5月20日に成田空港を出発しました。
　最初のトレーニング地となったのは、ノルウェーでした。ノルウェーでの合宿予定は、1週間ということで、私たちにとっては短いようで長いヨーロッパでの合宿生活が始まったのでした。
　私たちが泊まった所は、国際的交流のある学校で、近くには湖があり、木々もたくさん茂り、静かで環境的には最高の場所でした。地球上で北極寄りの国なのでまだ寒く、それに私としては初体験の白夜でした。朝4時ぐらいから夜11時ぐらいまで太陽が出ていて明るく、時間感覚がなくなってしまいそうでした。
　次の日からトレーニングが始まりました。近くの体育館でのトレーニングで、少し時差ボケということもありましたが、ひと汗流しました。
　体育館は、ハンドボールコートぎりぎりのスペースで、狭く感じましたが、ハンドボール専用に出来ているし、町の学校もコートが2面あったりと、すごくハンドボールが盛んな町だと感じました。試合会場も観衆がたくさんで、選手と客が一体となってゲームを盛り上げていました。アジア大会は、日本での開催なので、こんなふうに客と一体になって、勝ちゲームになるようにしたいと思いました。
　ノルウェーでは、ナショナルチームと4ゲームしたのですが、最初の3ゲームは自分たちのペースがつかめずに相手のパワーとスピードに負け、パスやキャッチなどの初歩的なミスも目立ち、負けてしまいました。長身の人のロングシュートやポストのパワーで持っていかれるシュートや、ノルウェーのセンターなどは自分と同じくらいの身長であっても、ヨーロッパ的ハンドボールに引けを取らないスピードあるカットインプレーなどで得点していました。
　4ゲーム目は、次第に相手チームの特徴もわかって来て、ディフェンスの動きも良くなり、速攻での得点も多くなりました。前日のゲームの攻撃よりセットプレーのミスも少なく、ゲームは24－17で終わり、初白星となりました。
　ヨーロッパ最初の合宿地でのスタートは良かったといえず、つまづいてしまいましたが、これから少しずつ日本の波に乗って行けるのではないかと思います。やはり、最終目的はアジア大会で韓国、中国を破ること、自分たちの力を出し切って、このヨーロッパでの合宿の成果が出るよう頑張りたいと思います。

袰川亜由美

　全日本の長期合宿中、ヨーロッパ遠征に1ヶ月も行くということは今回が初めてでした。5月21日に出発して、まず最初に入ったのはノルウェーで、ここでは約1週間という予定でした。ノルウェーは日本の7時間遅れの時差があり、また日本の5月とは違ってまだ肌寒いという気候でした。そして、どうしても慣れなかったことが「白夜」で、夜は12時ごろやっと暗くなり、朝は4時にはもう明るくなっているということでした。最初はやはり、食事の方にも慣れず、こういう日本とはかなり違った状況の中で、これまで4月からの合宿でやってきた私たちのハンドボールがどれだけやれるか、不安いっぱいでした。
　ノルウェーでは、ナショナルチームと4試合やって来ました。最初のゲームは、不安に思っていたとおり、自分たちのプレーがなかなか出せず、また、ヨーロッパ人の大きさやパワーなどに押されて、ディフェンスの上から何本もロングシュートを打たれたり、大きいポストを守り切れず、押し込まれたりで、簡単に得点されてしまったという試合が続いてしまいました。しかし、4試合目にもなると、私たちも相手の特徴をだいぶ知り、ロングシュートに対する早目につめるディフェンスや、大きいポストにボールが入っては、なかなか押さえるのは難しいということで、ポストにボールが入る前に、そのパスをカットするということを意識してやりました。その点がだいぶ守れるようになり、その守りから、速攻に出て得点することが出来たし、遅攻では、今までやって

来た展開も決まり始め、初めて、私たちのペースで試合が出来ました。そして、このノルウェーでの最終戦では、勝つことが出来ました。

この後、チェコ、オーストリアへと遠征は、まだまだ続いたんですが、このノルウェーでの勝った試合は、私たちにとって、ひとつの自信になったし、まだまだ少しだけど、自分たちの試合でのリズムもつかめたと思います。

大きな目標を果たすためにも、今回の遠征で勉強出来たことを十分に生かしてがんばっていきたいと思います。

チェコスロバキアにて

武津優子

23日間と遠征で一番長く滞在したチェコスロバキア。ここでは、国内転戦をして5ヶ所を巡り、数々のチームと戦って来ました。

何処に行っても感じたのは、観客のエキサイティングな応援にしろ、スポーツ施設にしろ、ハンドボール熱が高いということでした。

最初に入ったオリンピックスポーツセンターでは、各国のナショナルチームや強豪チームが合宿をはり、そのためのトレーニング器具、サウナ、マッサージ等のアフターケアの施設が整っていて、日本ではまだそこまでのスポーツセンターが残念ながら無いようです。

試合の方は、ノルウェーではヨーロッパの選手との体格差、レフェリーに対しての戸惑いで、1勝は挙げれたものの押され押されの結果に終わりましたが、チェコでは10戦中7勝3敗（そのうち男子Jr.と1試合）で、この戦績は大きな自信になったと思います。

対戦したチームは、選手は17歳のエースから子連れのママさんハンドボーラーまでいて、層の厚さを感じました。

パワフルな重量ポストが特に印象深く、ディフェンスでもポストを守るのに苦労しました。

長期合宿を始めて1ヶ月余でヨーロッパに乗り込んだわけですが、攻撃でも防御でも、まだコンビネーションが取れずにぎくしゃくしていた部分が多々ありました。

それが、チェコで試合、練習を重ねていくに従って、コンビも上手に噛み合ってきて、欲しい時に点が取れる、防御でも粘れるようになり、速攻につなげる等、頭書の目標にしていたハンドボールが次第に自分たちのものになってきたのを感じました。

とはいっても、課題はありますが、勝った負けたといった戦績以外での成果が大きく挙げられたと思います。

1ヶ月のヨーロッパ遠征を終え、長期合宿に入って3ヶ月が過ぎ、本戦まであと2ヶ月となりました。

西村朋子

約1週間のノルウェーでのトレーニングを終え、いよいよ長期滞在予定のチェコスロバキアに入りました。

空港は少し華やかさも消え淡々とした雰囲気。念入りな入国チェックを済ませた後、バスでニーンベルグにあるオリンピックスポーツセンターに向かいました。緑に囲まれた総合スポーツセンターで、あらゆるスポーツ施設があり、バスケット、陸上をはじめ各国のナショナルチームが独自にトレーニングに励んでいました。偶然にも着いた2日後に、プラハで日本でいう全日本総合のようなチェコのナンバーワンを決める「スラビア・プラハ対デュスロ・シャラ」のファイナルゲームがあるということでゲーム観戦。まず会場の異様な盛り上がりにただ驚いて、圧倒されてしまいました。それほど広くはない会場でしたが超満員で、両チームの応援合戦のためアップの時から隣りとも十分に話ができないほど……大阪出身の私としては、思わず阪神ファンののりを思い出すくらいの熱狂さでした。

ゲームも1点を争う白熱戦で、結局は先攻逃げ切りの形でスラビア・プラハの勝利に終わりました。ゲーム観戦後、この両チーム共に全日本とゲームが組まれているということを聞いて血が騒ぐ中、強烈な刺激を受けていよいよチェコでの本格的トレーニングがスタートしました。

そして第1戦目、二部1位のスパルタ・プラハに前半は競り合ったものの、速攻などで一気に振り払ってまずは白星。その後はチェコの優勝チーム、スラビア・プラハと4ゲームのスケジュール。今までのチームに比べると速攻がかなり速く「パワーとスピード」を兼ね備えたチームというのがまず第一の印象でした。ラストの4ゲーム目はアップを終えてユニフォームに着替え、いざ出陣！とフロアに出たものの、待ちうけていたのは男子チームというハプニングもありました。

結局、女子とは3ゲーム中2勝……スピードのまま超ロングシュートを打たれたり、強引に押し込まれる場面もありましたが、ディフェンスで粘ることや速攻やコンビによる得点方法など、ワンゲームごとに習得できたとても意味のあるゲームだったと思います。

10日間いたオリンピックスポーツセンターを後に何泊かずつの予定でそれぞれの地元チーム、「ゾラ」と「ツリン」とゲームをしました。今までずっとスラビア・プ

ラハとゲームをして来たせいか、全く違うパス回しのテンポにリズムがなかなか乗れなかったこともありましたが、それぞれに白星をあげいよいよチェコでの第二のポイントともいえる、準優勝チームの待つシャラへと向かいました。

宿舎は緑の多い静かでとてもゆったりしたところ。近くにはケシの花も咲きサウナやプール、マッサージもある心身共にリラックスできる場所でした。そこで私たちは16日のメインゲームに目標において日々トレーニングに励み、いよいよラストゲーム。広い観客席を持つ会場は、いつの間にか人でいっぱいでした。前半を同点で終えた時は「Ｊａｐａｎ」コールも出だす1点を争う展開となりましたが、最後に2点差で振り切られ黒星という結果となりました。攻撃、ディフェンスとも自分たちの今できている所はより親密に、足らない所は徹底的に練習できたシャラでの5日間はとても貴重な時間だったと思います。

チェコでのトレーニングもとうとう終盤にさしかかり、ドナウ川をはさんでのハンガリー国境に面した最後の転戦地であるゾウリンという小さな村に着きました。チェコでのラストゲームは、暑さと会場の熱気でムッとする中行われ、久し振りの暑さに慣れない面もありましたが最後を白星で飾ることができました。チェコに来て約10ゲームを終えた中で全体的に審判の笛の違いに戸惑ったりもしましたが、すべてがとてもいい勉強になったと思います。

川島ゆう子

5月27日、ノルウェーを出てチェコスロバキアへと移動した。チェコスロバキアは共産国で、古城を中心とした町並が続いた落ち着いた雰囲気の国でした。

私たちが宿泊したところは、各国から集まった色んな競技のオリンピック選手が、そこでハードスケジュールをこなし、成果をあげているところでした。

ここで私たちは、12日間を過ごし5試合を行いました。試合を重ねていくたびに、チーム、個人にも課題が出て来て、それに向けて練習を積んでいきました。ヨーロッパのハンドボールとアジアのハンドボールとでは、異なることが多く、ロング、ポスト、サイド、ゴールキーパーといてそれぞれのポジションで、研究することがたくさんあり、本当に毎日考えさせられました。どういうプレーが通用するのか、どういうプレーが通用しないかなど、身にしみて勉強になりました。

6月8日にオリンピックスポーツセンターを後にして、チェコスロバキアの各町を周りながら、試合を行って行きました。

その中で、6月11日から17日までＳＡＬＡという町のクラブチームとゲームを行ったのですが、このチームにはベテランが多く、中でもポストプレーヤーの動きは日本人にはない独得のプレーをしていた。体が大きいのはもちろん、ボールをもらってからの動きが速く、ディフェンスに体をあずけ、ゴールまでねじこんでくる。ロング、サイドシュートも打点が違う。日本人を相手にしていてはわからないことです。

審判の笛の傾向も大きく違い、それを早く読みとることも課題としてあがりました。とにかくヨーロッパのパワーハンドボールに体当たりできてよかったと思います。

4月から合宿に入り、1ヶ月間のヨーロッパ遠征を経て、チームの信頼感も深まり、コンビネーションもあってきました。この経験を生かして自分たちの一番の目的を達成させれるように頑張りたいと思います。

松田史佳

5月27日、戦績がいまひとつ思わしくなかったノルウェーを後にし、私たちはチェコスロバキアに移動した。

そこで私たちが宿泊した〝オリンピックスポーツセンター〟は、素晴らしい設備の整った施設であり、サウナはもちろん、プール、マッサージ、ビデオ室、さらにはビリヤード、Ｂａｒまでもが完備されていた。各国の各種目の選手たちは、そこで熱心にトレーニングに励んでいた。おそらく、日本では考えられないスポーツ施設で、スケールの違いに驚いた。

また、現地のハンドボール協会の方々が温かく迎えて下さり、3週間あまりのチェコの滞在、その後のオーストリアまでありとあらゆる面でお世話して下さったことはわすれられない。

私たちは、そのスポーツセンターでトレーニングに入り、30日から試合に臨んだ。

チェコでの1戦目、相手は二部の1位のレベルのチームであったが、白星をあげることが出来た。

チェコの1位のスラビア・プラハとの試合では、逆転で勝利をおさめることができた。この頃から、相手選手のパワーやレフェリーの笛にも慣れ、ディフェンスにも粘りが出てきたし、コンビネーションもうまくあってきた。

6月8日からはチェコ国内の転戦に入り、四つの街を周って5試合行った。戦績は4勝1敗。戦績もゲームの内容もよかったと思う。

試合を通して感じたことは、日本のハンドボールとの違いは、まず第一に選手の体格の差である。やはり、背は高いし、特にパワフルなポストマンが印象に残った。ポストにパスが入れば、必ずとい

っていいほどペナルティー得点につながっていた。

しかし、そのパスも、試合を重ねるたびに少しずつではあるが守れていたと思う。あまりの強引なポストプレイヤーのため、力負けし、警告、退場といった場面も多々あった。

フェイント力は、やはり韓国や日本の方がスピードがあり、するどく、よくきれると思いました。

細かいプレーは、アジアのハンドボールが優れていると思う。

とにかく、ハンドボールはチェコでは非常にメジャーなスポーツで、レベルも高い。小学生くらいから始めている人が多いし、ハンドボール人口もたいへん多い。観客の応援も、すごく熱かった。

日本ではまだまだマイナーなスポーツといわれているが、やはり8月のアジア選手権大会に勝って、オリンピックに出場し、メジャーなスポーツにしたいと思う。

村山みどり

5月20日から始ったヨーロッパ遠征も最初の目的地であるノルウエーでの予定を無事に終え、27日に第二の目的地であるチェコスロバキアに移動しました。

チェコスロバキアでは、首都であるプラハから40分ほど離れたニンベルグという町にあるナショナルトレーニングセンターに行きました。

ここはテニスの一流プレーヤーとして有名なナブラチロワやレンドルが育てられた所だそうで、私たちが滞在していた間も各国のナショナルチームやジュニアチームが練習に励んでいました。敷地面積はかなり広大でテニス、サッカー、陸上をはじめとする多種目のグランドが整備され、サウナや温水プール、マッサージといった施設も設置されており、選手にとって最高の環境が整えられていました。

28日にプラハで行われたチェコスロバキアの一部リーグの決勝戦を見学しましたが、会場は超満員、その上観客は試合が始まる前から異様なまでに盛り上がっていました。試合の結果は、スラビア・プラハがデュスロ・シャラに3点差で勝ち優勝しました。試合が終ってからも観客が選手を取り囲んで興奮がなかなか冷めやらぬ様子で、やはりヨーロッパはハンドボールの本場なんだなとつくづく感心してしまいました。ここでは、スパルタ・プラハ、スラビア・プラハ、スラビア男子ジュニアと試合をしました。

いずれのチームもスピードとパワーがあり、シュートの一本一本に迫力を感じました。攻撃では、高さを利用したロングシュート、パワーあふれるポストシュートが印象強く、その上ポストプレーヤーは重量級の選手がほとんどで、ディフェンスも守るのに苦労していました。

6月8日にオロモウツという町に移動し3日間滞在して1試合しました。そして、11日に靴で有名な町ツリーンで1試合して、今年の一部リーグ2位のデュスロ・シャラのホームタウンであるシャラに向いました。シャラでの宿舎は、リハビリ施設のある療養所のような所でサウナやジェットバスなどの設備がありました。1週間ほど滞在して3試合ほど行い1勝2敗という結果でした。デュスロ・シャラは、スラビア・プラハとの試合を見学していたので、大体どんなチームかわかっていたはずなのに思っていた以上にスピードのあるチームでした。

特にポストプレーヤーはとんでからキーパーをよく見てシュートを打ってくるのでよく惑わされます。

チェコスロバキアでは、17日に国境近くの町で最後に1試合し、全部で10試合して7勝3敗という成績でした。今回のヨーロッパ遠征で、ゴールキーパーからの視点として感じたことは、ディフェンス面において一線と1－5の使い分けができるようになり、ロングシュートに対する壁の作り方も以前より良くなってきたこと、また、ゲームがシーソー状態になった時にディフェンスがかなり粘れるようになったことです。オフェンス面でもコンビネーションや速攻などの展開が良くなり、合宿の成果が出てきたと思います。自分自身としてはあまり満足のいくキーピングが出来た試合がなかったのですが、今回の遠征で見たこと、感じたことを日本に帰ってからの練習にぜひ生かしていきたいと思います。

オーストリアにて

木口ゆかり

約1ヶ月にわたるヨーロッパ遠征は、ノルウェー、チェコ、そして最後はオーストリアでした。オーストリアでは、2試合ゲームが組まれており、オーストリアでナンバーワンのヒポバンクが相手でした。私は、

「どんなチームなのかな」

と思っていました。ヒポバンクを知っている先輩方に話を聞くと、とにかくすごいといわれました。私は少し緊張してヒポバンクとゲームをする体育館にいきました。壁に大きな写真がかけてあり、トロフィーを持っているものや、みんなが並んで写っているもの、その他にもいろいろなものが飾って

ありました。

「これが本当にみんながすごいというチームなんだ」

と私は感じました。

そして、試合の日、オーストリアに来て緒戦です。午前中は、ウィーンを観光しました。

アップ中にヒポバンクの人たちが目に入りました。日本人と違うと思ったところは、体の大きさ、力の強さを感じました。でも日本は、スピードハンドボールで、私は、この遠征の数々の試合を見て、どのチームにも全日本は、スピード負けはしていないという気がしていました。試合が始まって、ヒポバンクの力強いロング、サイドシュートが決まると、全日本もロング、カットイン、サイド、速攻と全員の得点で、結果は全日本が勝ちました。次の日は、遠征最終日。そして試合も最後となりました。午前中は私たちが宿泊しているスポーツセンターで最後の練習をしました。今日も午後からの試合だったので、午前中に練習をしたのです。

いよいよ時間がせまってきました。みんなの気合いも入っていました。監督も、

「相手チームは、きのう全日本に敗れて今日はかんたんに勝たしてはもらえないぞ」

とみんなに、厳しい言葉をかけられました。

結果は、速攻、ポストシュートなどを確実に決めていった全日本が、30対22と2日連続で勝利を収めました。そして、1ヶ月間の遠征は終わったのでした。ケガ人も出ずに、無事に帰ってこれたのも、良かったことだし、私にとって初めての全日本としての遠征は、とてもすばらしい経験になったと思います。そして、これから先輩がたのすばらしいプレーを見習っていきたいと思います。

谷本 泉

社会主義国のチェコスロバキアとオーストリアの国境をバスで越えて、6月18日オーストリアへ入りました。チェコスロバキアと違って、こちらの方は社会経済が発展していて、街に入るとにぎわいを感じました。

今回の海外遠征は、全日本初の試みで、その中に自分が入れたことは、とても幸福なことだと思います。4月7日からチームを組んで、毎日練習してきました。その成果をためす絶好の機会でした。計画した多くの試合もあと2試合になりました。

オーストリアで対戦したチームは、ヒポバンクでした。このチームは、国から優秀なプレーヤーをよんで編成したチームだときいていました。体も大きく、スピード、パワーを兼そなえていて、この遠征を締めくくるにはとてもよい相手だと思いました。

第1試合。相手はどんな人たちがいるのだろうと、胸を高ならせていました。ロングヒッターが一人いて、あとサイドがローリングに入ってくるといったよく動くチームでした。この試合で、そのロングヒッターに11得点されていたので、次の試合ではどれだけその人をおさえていけるかを課題にされました。自分には、速攻のはやい飛びだしが要求されました。

第2試合。ディフェンスがうまくかみ合ったようで、いくつものシュートカットがありました。速攻も、単独もあったし、リバウンドボールからの速攻、ハーフ速攻といろいろなパターンが見られました。個人の特徴を生かしたプレーがでていたし、ゴールまでのスピードがあったように思いました。試合を終えたとき、いろいろな課題がでてきましたが、勝つ喜びをすごく感じました。この気持ちを大切にしていきたいです。

この遠征で私は、確かに何か手ごたえを得たと思います。試合の中での辛抱しなければならない時の攻防、いくつかのコンビプレー、また自分自身では、弱かった精神面が少しかもしれませんが強くなったと思います。でもなによりも、チームがこの1ヶ月間でさらにまとまったように一番感じました。

大会まであと2ヶ月。私には、まだまだやらなければならないことがたくさんあります。サイドマンとして、どれだけ速攻にでれるか一対一で相手を破れるか、守れるか、細かい部分までやり残すことのないようにしていきたいです。

比嘉晴美

1ヶ月のヨーロッパ遠征でノルウェー1週間弱、チェコスロバキアを3週間余、そして最終地のオーストリアで3日間と各地を周った。

オーストリアでは、ハンドボールで名の知られている東ドイツ、ユーゴスラビアなどから名選手を集め、昨年のソウルで行われた世界選手権で4位に入り、バルセロナ・オリンピックの出場権を手にしているヒポバンクと2試合を行った。

1試合目は、今まで試合をしてきたチームの中でもパワー、スピード、技術の全体的な面で上回るハンドボールに少しためらっていた部分と、長距離移動のせいか、前半みんなの足が重く動いていなかったため、外人特有のパワーハンドに押され、得点を許していたが、中盤から速攻が出だして波にのり、30－25で白星をあげた。

2試合目は、1試合目の時に右45度の11番の選手に、ロングでかなり得点をされていたが、この試合で前半の中盤からシュートがおもしろいようにディフェンスの手

に当たりだし、それからの速攻で得点を積み重ね、相手のスキをついたカットイン、ロングシュート、などのコンビが決まり、31－25と2試合目も白星でかざることができました。

試合の反省は、大きなポストの人に対するディフェンスのしかたや、逆速攻の帰りなど課題は残っており、特に退場者が多いのは、遠征中に目立った。

しかし、今までの試合の中であった、得点の得られない時間（ブラックホール）があまりなくなり、得られなくてもディフェンスで粘れることができるようになったこと、一番良かったのは、最終戦を白星でかざることができたことだと思います。

それから、私がオーストリアに来て一番印象に残っているのは、スポーツ施設のすごさで、私たちの泊まった宿舎は、オリンピック養成学校で、いろいろな地方から選手を集めて養成しているところです。

体育館、テニスコート、サッカー場など整った施設は、今の日本のどこを探してもありません。その国のスポーツのレベルの高さ、層の厚さや取り組み方に感動しました。

日本も、もっとオーストリアみたいな施設が増えると、スポーツもさらに向上するのではないでしようか？

遠征を終えて

梅原直美

この遠征の日程は5月20日に成田空港を出発して約1ヶ月間の予定で帰国は6月23日でした。

私が出発前に感じていたことは、長い期間全日本チームに参加させていただいて対外国相手では今一歩、力が及ばなかったり、または、大差で負けてしまったりとさんざんな結果でした。今回も多少は不安がありました。けれど4月からの合宿が始まってからのチームの状態を考えてみれば、今まで私が見てプレーしてきた全日本チームとは何かが違っていると思いました。でも何が違っているのかは、遠征が終るまで答えはわかりませんでした。

さて、ヨーロッパの転戦についてですが、ノルウェーに行き4試合をナショナルチームとやり、始めは相手の特長やいろいろとわからずにプレーをしていましたが、回を重ねるごとに慣れてきて、相手は大きく歩幅が広いので、私たちが国内で戦って来たようにしていればすぐにカットされて逆速攻になったり、ディフェンスでも前で守らなければ押し込まれてシュートという状態でしたが、最後にやっと私たちらしい攻撃と日本にいる間、ディフェンス練習を何度も繰り返し続けて来た結果が出て来たと思うし、一番良い形で勝てた試合だったと私は思いました。

その他にチェコから始まりオーストリアと続きますが、全体的に見て今までの試合を通してわかったことは、前回までの全日本チームは、前半は接戦でも後半に入るとペースダウンして最後には得点が離れていたりということが多くありました。でも今のチームは途中まではリードされていても追いついて行けたり接戦の末勝ったりというケースがかなりありました。また、得点の取り方でも1試合必ずといって良いほど23点以上を取れず、今回では25点を目標にといわれていました。試合をしていくうちに25点から30点を持続して取るようになり、一つの目標にやっとたどり着くことが出来たなと思いました。そして一番強いといわれていたヒポバンクチームにも取ることが出来て安心しました。この遠征でチームに大きかったことは、ほとんど毎日試合があり、また練習があったり、買い物をしたあと試合をしたりとすごくハードな毎日でしたが、苦しい状態の中でも良い結果が出せたのは、精神的、肉体的に少しずつでも強くなり、耐えられる力がついて来ているのかなと思いました。

最後になりますが、残された時間は限られてきているので、この遠征で覚えたことと見て来たことを無駄にせず、これから始まる国内サーキットから昇り調子になって本番の予選に臨めるように努力し、是非バルセロナへのキップが取れるように頑張りたいと思います。

宗片美智子

今回の遠征では、ノルウェー、チェコスロバキア、オーストリアをまわりました。

ノルウェーではあまりいい成績を残せなかったものの、チェコスロバキア、オーストリアと進むうちに精神的な面や、チームワークがとても良くなってきたと思います。

ノルウェーでの日程を終えた時点では、オフェンスでもディフェンスでも課題とされるべき点がいくつもありました。

ディフェンス面では、ポストに対する守りと警告、退場が多いこと、オフェンスでは、コンビプレーでの小さなミスとシュートミスなどでした。しかし、チェコスロバキアに入る頃には、ディフェンスでは、警告、退場はまだ少し多いものの、攻撃に対する壁が作れるようになってきました。

オフェンスでは、少しずつミスが少なくなり始め、コンビプレー

が出来るようになったことと共に、全体的な攻撃にも幅が出てきました。

最後のオーストリアでは、オリンピックセンターに宿泊しました。いろいろな設備があり、すみずみまで管理が行き届いた感じで、宿泊した部屋もとても清潔感があり、一見ホテルのような雰囲気がありました。

ヒポバンクの体育館に行った時にも思いましたが、やはり、医療や競技の設備がいろいろと揃っていて、ヨーロッパの国々では、国全体でスポーツを盛り上げて行っているのだと思いました。

ヒポバンクとのゲームでは、それまでのゲームがいい教訓となり、自分たちの長所を生かしたとてもいいゲームができました。

今回の遠征では、速攻を中心とした攻撃とキーパーを含めたディフェンスのより一層のレベルアップと何よりチームワークがアップできました。

上村多恵子

今回の遠征は、私たちの武者修業ということで、タイトルがかかった遠征ではなかったので、気分的には楽でしたが、1ヶ月の長期滞在にかなり不安もあり、今回自分たちのレベルはヨーロッパでどれだけ通用するのかの不安も重なりあまりいい状態で出発してはいませんでした。実際に、体格もパワーもスピードもはるかに違う欧米人に対して通算10勝5敗の成績は結構よかったのではないかと思っています。はじめの方のマッチ戦では、試合慣れしていなかったせいもあったのか、スピードに押され、退場者も多く、まともに6対6で戦った時間はほとんどなかったのではと思うほどで、他に国内で通用するプレーもスーッとボールをカットされてしまったりで、全く自分たちのハンドボールをやってませんでしたが、いくつか試合を重ねるうちに、チームの欠点も少しずつカバーできるようになり、大型選手に対しての守りや攻めも、大分対応できるようになりました。最終のヒポバンク戦では2戦連勝するというほど、チームが盛り上がっていきました。

この遠征の自分が感じたチームの収穫を一つあげてみると、ゲーム中に、5、6点相手に点を離されても、それを巻き返す粘り強さを身につけたことです。今までだったら、それほど点が離れると諦めが先に出ていましたが、最近では強い精神力がついたのか、全員が粘りのあるプレーに結びつけるようになりました。

自分自身の反省する点も、勉強してきたこともたくさんありますが、まずその欠点を一つずつ克服して、チームにプラスになるようにもっていき、アジア選手権では、この遠征で得たものをプラスしながら、がんばってチームをもっと盛り上げていこうと思っています。

小野寺かおる

5月20日から6月22日までの約1ヶ月間のヨーロッパ遠征、私にとって初めての体験でびっくりすることばかりでした。日本へ帰って来てみると、あっという間の1ヶ月間だったけどノルウェーに着いた頃は、気候もかなり寒く乾燥していたため、練習中すぐのどが乾いたりとなかなか体が慣れなくて苦労しました。ノルウェーの選手といえば、ソウル・オリンピック銀メダルという印象が強く、そんな人たちと一緒に試合をするので、どんなプレーをするのか楽しみでした。私はこの遠征で初めて全日本のユニフォームを着て試合に出ましたが、いざコートに立ってみると、自分がものすごく小さく見えました。背や体はもちろん小さかったけど、ノルウェーの選手の思い切りのいいプレーや自分のプレーに自信を持ってやっている姿、そして大きな体から出るパワーに圧倒されました。

はじめの3試合はイージーミスが多くて、3点差で負けてしまいましたが、4試合目にはかなりミスも少なくなり、ノルウェー最後を勝ち星で飾ることが出来ました。チェコではまずオリンピックセンターという素晴らしい設備の整った所で、各国からトップレベルの選手たちが毎日のように入れ替りに来てはトレーニングに励んでいました。私たちもグランドや体育館も使ってトレーニングをし、空いた時間では温水プールやサウナなどで体をケアし、試合をしました。チェコでは10試合ほどしましたが、どのチームも重量感あふれるポストプレーが多く、ノルウェーの選手よりもスピードがあるのでかなりディフェンスで悩まされました。

最終地オーストリアでは、チームもかなりまとまってきて、攻撃の方では速攻を中心とする25点以上の攻撃も安定してきてディフェンスの方もポストの守り方も慣れてパスカットなども何本か出てきました。この1ヶ月間のヨーロッパ遠征はとても良い結果で終われたと思うし、個人個人も自信がついて帰ってこれたと思います。

日本でハンドボールといえば、あまり観客が入っている所を見たことがないのに対しこのヨーロッパ遠征では体育館がほとんど満員で、1点入るごとに自分がシュートを打ったような喜びようで、見ていて早く日本も選手と観客が一体となって喜べるような試合が出来ればいいのになあーと思いました。私たちが広島の大会でオリンピックの出場権をとれたならもっと人気も出てくると思うし、その

ためにもがんばらなくてはいけないなーと思いました。そしてヨーロッパのように設備の整ったスポーツセンターがいくつかあったら、ハンドボールだけでなくいろいろなスポーツが盛んになると思いました。

尾苗裕美

今回のこの遠征合宿は、何かの大会に参加するという形のものではなく、強化目的のための遠征でした。私自身こういう形の遠征に参加するのは初めてでしたし、他のメンバーやスタッフの方々も初めての体験でしたので、1ヶ月という期間の長さや、渡されたトレーニング内容等を見て、ものすごい不安と多少の期待を抱いて行って来ました。

ノルウェー6試合、チェコスロバキア10試合、オーストリア2試合の計18試合をこなしてきました。その中には2試合ほど男子チームとのゲームもあり、パワーの違いや、スピードの違いを見せつけられたこともありました。

行ってすぐの国（ノルウェー）では、やはり、周りの環境に慣れていないのと、ヨーロッパ人の体の大きさについていけずに連敗続きでした。

しかし、試合ー練習ー試合ー練習と、試合で出来なかった部分を次の練習でチェックしていくというやり方を繰り返しているうちにディフェンス、オフェンス共にコンビがとれてきだしたし、チームとしての戦術、戦法、守り方等がまとまってきて、何試合かは自分たちの試合が出来るようになってきました。

しかし、まだ試合をやっている最中に、相手の攻撃の中心はどの選手で、こういうパターンが多く、どういう攻めをしてくるから、こんな守り方にしようかという〝相手に対する対応力〟がまだまだのような気がします。

たとえば、チェコでの試合以降は、ポストを使って攻めてくるパターンが多かったのにもかかわらず、やられ放しになっていた部分や逆速攻の守りの部分と、まだまだ課題は沢山あると思います。

最後に行ったオーストリアでのヒポバンクとの2試合は、この遠征で一番力のあるチームだったので、両方共、勝てたことは相手のメンバーが全部揃っていなかったにしろ、遠征の締めくくりのゲームとして最高のものだったし、自分たちの自信にもなりました。

全体的にも、何点か離されても辛抱して食らいついていけるという面も出てきたし、まだまだ課題は沢山残っていますが、本当に成果の多かった実りのある遠征合宿であったと思います。

このチームのムードと自信を8月のアジア選手権に向けて、もっともっと大きなものにして、本番に臨みたいと思います。

丸田純子

5月20日より全日本女子は、約1ヶ月ほどかけてノルウェー、チェコスロバキア、オーストリアの3ヶ国を周るヨーロッパ遠征に出発しました。海外での強化合宿というのは、私にとっても全日本女子にとっても初めてのことで期待と不安でドキドキしました。

日本でのトレーニング段階では、攻守共に不安材料ばかりだったため、ヨーロッパのスピードとパワーに互角に戦えるかなという不安感がありました。そして案の定ノルウェーでの試合は自分たちの弱い所、甘い面がすべて表面化されてしまいました。ヨーロッパのチームと戦うには、まずポストプレーを守らないと、ロング、サイド、カットインと、多彩にプレーされてしまうので、毎日のトレーニングはディフェンス力の改善と自分たちのミスから得点されないよう凡ミスを無くすということ、得点は25点以上を目標として練習してきました。

そして、ノルウェーでは4試合目にしてやっと勝つことができ、その後はチェコでの転戦、オーストリアとの試合もほぼ順調でした。でも私たちにはまだまだ改善する課題があるし、ヨーロッパとアジアではプレーのタイプも違う。そして1試合の間に波がありすぎるのと、2、3点あいて勝っている時に相手を突き放してしまう得点力等、克服していかなければなりません。

こうして最初は不安だった海外遠征も、長い長いと思っていましたが意外と早く日が過ぎていき、日本に帰国したら梅雨の季節だと思うと、ヨーロッパのカラッとしてて、どんなに走ってもあまり汗をかかなくて気持ちの良い気候を離れるのはちょっと残念だと思いました。宿泊した所は、どの国でもかなりの田舎町だったり、農家や牧場の近くだったりで、大きな池のある林のそばだったりで、本当にのどかな所ばっかりだったので、練習の疲れや緊張感をほぐすのに良い所だったと思いました。ずっと同行して下さったIHFのムラッツさんは選手がリラックスできるように、プールやサウナ、マッサージ等の施設のある宿舎を探して下さってたようで、そのおかげだと思います。

私たちが国外・国内を含め長期合宿をするにあたって、いろいろと気づかってくれる方がいたり、協力して下さってる人がたくさんいるので、その期待に応えられるように一度気を引きしめ直して、残り1ヶ月と少ししかない時間を全員で頑張っていこうと思います。

各地の記録から…

東北

第41回青森県高校春季大会
（5月11、12日／三本木高校）

〈男子〉
▼1回戦
今別 28－4 五所川原工
▼2回戦
青森山田 18－17 三本木農
五所川原 14－13 野辺地
青森南 16－14 野辺地横浜分
青森商 26－16 今別
青森 30－15 十和田工
三本木 33－9 柏木農
七戸 24－15 鯵ヶ沢
野辺地 25－10 青森東
▼3回戦
青森山田 31－10 五所川原
青森商 31－12 青森南
青森 18－11 三本木
野辺地 33－13 七戸
▼準決勝
青森商 36－14 青森山田
野辺地 19－17 青森
▼決勝
青森商 29（15－7、14－12）19 野辺地

〈女子〉
▼1回戦
青森西 37－7 青森東
今別 18－4 三本木
青森中央 28－1 青森商
野辺地 17－2 六ヶ所
▼準決勝
青森西 19－5 今別
青森中央 16－15 野辺地
▼決勝
青森中央 14（8－5、6－3）8 青森西

関東

埼玉県高校関東大会二次予選
（4月27日～5月12日／草加市スポーツ健康都市記念体育館ほか）

〈男子〉
▼1回戦
浦和学院 43－8 城北埼玉
筑波大坂戸 19－17 伊奈学園
庄和 31－20 上尾東
川口工 25－13 県立坂戸
浦和南 26－6 秩父
春日部工 23－9 小松原
朝霞 21－15 三郷工
農大三 23－17 浦和西
川口北 32－4 吹上
埼玉一 25－14 三郷北
大井 12－0 熊谷
大宮南 26－7 春日部東
川口青陵 29－8 西武台
春日部 24－19 越谷南
埼玉栄 19－16 城西川越
浦和実 37－7 草加
▼2回戦
浦和学院 39－9 筑波大坂戸
川口工 22－13 庄和
春日部工 22－21 浦和南
農大三 25－8 朝霞
川口北 20－9 埼玉一
大宮南 26－20 大井
川口青陵 31－24 春日部
浦和実 31－11 埼玉栄
▼準決勝リーグA組
浦和学院 28－9 川口工
浦和学院 11－10 春日部工
浦和学院 18－9 農大三
農大三 13－8 春日部工
農大三 17－12 川口工
川口工 22－18 春日部工
▼準決勝リーグB組
浦和実 24－14 川口青陵
浦和実 31－15 大宮南
浦和実 25－13 川口北
川口青陵 21－12 川口北
川口青陵 26－17 大宮南
川口北 25－12 大宮南
▼決勝リーグ
浦和学院 18－9 農大三
浦和学院 31－12 川口青陵
浦和学院 18－18 浦和実
浦和実 24－14 川口青陵
浦和実 21－11 農大三
川口青陵 16－11 農大三
〔順位〕①浦和学院②浦和実③川口青陵④農大三

〈女子〉
▼1回戦
浦和実 44－6 秋草学園
川口女 21－13 行田女
本庄女 18－5 春日部東
上尾東 27－7 大宮南
川口北 16－13 西武台
埼玉栄 35－11 春日部女
小松原女 19－4 共栄
八潮 29－7 浦和市立
伊奈学園 20－10 筑波大坂戸
宮代 13－11 所沢北
草加 29－16 羽生一
三郷北 17－15 朝霞
浦和学院 25－7 吹上
浦和南 21－13 草加東
熊谷女 24－14 越谷南
川口青陵 31－3 八潮南
▼2回戦
浦和実 39－9 川口女
上尾東 18－16 本庄女
川口北 18－17 埼玉栄
八潮 25－9 小松原女
伊奈学園 29－6 宮代
三郷北 27－7 草加
浦和学院 21－10 浦和南
川口青陵 19－16 熊谷女
▼準決勝リーグA組
浦和実 34－3 上尾東
浦和実 25－6 川口北
浦和実 34－8 八潮
川口北 15－12 八潮
川口北 19－8 上尾東
八潮 29－12 上尾東
▼準決勝リーグB組
伊奈学園 21－7 三郷北
伊奈学園 19－10 浦和学院
伊奈学園 10－10 川口青陵
川口青陵 20－14 浦和学院
川口青陵 26－8 三郷北
浦和学院 19－7 三郷北
▼決勝リーグ
浦和実 25－6 川口北
浦和実 17－8 川口青陵
浦和実 22－5 伊奈学園
伊奈学園 10－10 川口青陵
伊奈学園 12－10 川口北
川口青陵 17－17 川口北
〔順位〕①浦和実②伊奈学園③川口青陵④川口北

関東大会千葉県予選
（5月11、12日／二松学舎沼南高）

●県大会
〈男子〉
▼1回戦
市川 29－6 船橋旭
八千代 12－7 船橋東
東葛飾 17－10 木更津
市川西 17－11 小金
若松 14－9 芝浦工柏
二松沼南 19－16 東京学館
東邦 17－11 市原
学館浦安 16－9 市立松戸
▼2回戦
市川 40－8 東葛飾
八千代 28－15 市川西
東邦 18－12 若松
二松沼南 11－7 八千代
▼準決勝
市川 22－12 東邦
二松沼南 11－7 八千代

▼3位決定戦
八千代 18－13 東邦

▼決勝
市川 29（16－7、13－5）12 二松沼南

〈女子〉

▼1回戦
昭和 27－5 若葉看護
若松 16－12 佐原女
佐原 18－1 市立松戸
和洋 20－9 東葛飾
東邦 15－6 聖徳
柏南 11－10 明徳
生浜 19－8 松戸秋山
流山中央 20－4 東金女

▼2回戦
昭和 29－12 若松
和洋 28－13 佐原
東邦 15－11 柏南
流山中央 18－16 生浜

▼準決勝
昭和 23－10 和洋
流山中央 15－13 東邦

▼3位決定戦
和洋 19－5 東邦

▼決勝
昭和 26（14－3、12－8）11 流山中央

●第1ブロック予選

▼男子予選リーグA
京葉 13－13 拓大紅陵
房総学園 23－22 拓大紅陵
京葉 18－17 房総学園

▼男子予選リーグB
木更津 20－14 市原
木更津 22－11 鶴舞商
市原 21－8 鶴舞商

▼男子決勝リーグ
市原 10－9 京葉
市原 11－6 房総学園
木更津 18－16 房総学園
木更津 11－10 京葉

▼順位決定戦
拓大紅陵 26－10 鶴舞商

〔男子順位〕①木更津②市原③京葉④房総学園⑤拓大紅陵⑥鶴舞商

▼女子
東金女 15－14 御宿家政

●第2ブロック予選

▼男子リーグ
東京学館 23－16 佐原
東京学館 35－7 四街道
東京学館 32－1 秀明八千代
佐原 45－7 四街道
佐原 12－0 秀明八千代
四街道 12－0 秀明八千代

〔順位〕①東京学館②佐原③四街道④秀明八千代

▼女子リーグ戦
佐原 15－7 佐原女
佐原 32－4 四街道
佐原 15－3 秀明八千代
佐原女 34－0 四街道
佐原女 19－3 秀明八千代
秀明八千代 13－3 四街道

〔順位〕①佐原②佐原女③秀明八千代④四街道

●第3ブロック予選

▼男子リーグ
若松 29－11 生浜
若松 25－11 土気
若松 24－10 千葉南
若松 30－9 泉
生浜 20－14 千葉南
生浜 17－14 泉
生浜 22－12 土気
土気 18－12 泉
千葉南 14－12 土気
泉 16－11 千葉南

〔順位〕①若松②生浜③土気④千葉南⑤泉

▼女子リーグ戦
若松 18－13 生浜
若松 13－12 明徳
若松 11－10 土気
若松 12－0 泉
生浜 13－12 土気
生浜 12－6 泉
生浜 13－7 明徳
明徳 14－4 泉
明徳 13－5 土気
土気 14－5 泉

〔順位〕①若松②生浜③明徳④土気⑤泉

●第4ブロック予選

▼男子Aリーグ
船橋旭 15－11 船橋西
渋谷幕張 14－8 幕張北
船橋旭 18－11 幕張北
渋谷幕張 18－8 船橋西
船橋旭 17－12 渋谷幕張
船橋西 9－7 幕張北

▼男子Bリーグ
船橋東 19－8 船橋法典
船橋法典 12－12 鎌ヶ谷
船橋東 19－6 鎌ヶ谷

▼男子代表決定戦
船橋東 21－9 渋谷幕張
船橋旭 18－9 船橋法典

▼男子1位決定戦
船橋東 20－9 船橋旭

▼女子の部
若葉看護 13－2 幕張北
東邦 26－4 幕張北
東邦 8－7 若葉看護

●第5ブロック予選

二松沼南 33－9 我孫子
二松沼南 34－1 県立沼南
二松沼南 25－19 柏
柏 19－4 県立沼南
柏 17－17 我孫子
我孫子 23－10 県立沼南

〔順位〕①二松沼南②柏③我孫子④県立沼南

●第6ブロック予選

▼男子Aリーグ
東葛飾 14－13 柏陵
芝浦工柏 19－8 東葛飾
芝浦工柏 16－15 柏陵

▼男子Bリーグ
柏南 23－6 流山東
流山中央 14－13 柏南
流山中央 17－11 流山東

▼決勝トーナメント1回戦
柏南 15－8 柏陵
東葛飾 16－13 流山東

▼準決勝
芝浦工柏 15－12 柏南
東葛飾 18－15 流山中央

▼決勝
芝浦工柏 16－4 東葛飾

▼女子Aリーグ
柏南 8－4 柏陵
東葛飾 11－7 柏南

東葛飾 11—10 柏陵

▼女子Bリーグ
柏陵 10—10 柏南
東葛飾 9—8 柏南
東葛飾 10—8 柏陵
〔順位〕①東葛飾②柏南③柏陵

●第7ブロック予選

▼男子Aリーグ
市立松戸 13—8 松戸秋山
市立松戸 11—10 国府台
国府台 10—10 松戸秋山

▼男子Bリーグ
専大松戸 29—16 小金
小金 25—12 松戸六実
松戸六実 7—6 専大松戸

▼決勝リーグ
小金 13—12 市立松戸
市立松戸 19—6 松戸六実
小金 23—10 国府台
国府台 12—5 松戸秋山
〔順位〕①小金②市立松戸③国府台④松戸六実⑤松戸秋山⑥専大松戸

▼女子の部
和洋 16—6 松戸秋山
和洋 21—2 聖徳
和洋 23—2 市立松戸
和洋 24—1 専大松戸
松戸秋山 13—12 聖徳
松戸秋山 16—5 市立松戸
松戸秋山 10—4 専大松戸
聖徳 16—6 市立松戸
聖徳 20—3 専大松戸
市立松戸 10—4 専大松戸
〔順位〕①和洋②松戸秋山③聖徳④市立松戸⑤専大松戸

●第8ブロック予選

▼男子リーグ
市川西 37—6 浦安南
市川西 22—9 国分
国分 27—7 浦安南
〔順位〕①市川西②国分③浦安南

関東高校東京都予選

（日程、場所不明）

〈男子〉

▼1回戦
府中 32—11 秋留台
羽村 19—14 武蔵
青山学院 15—5 豊多摩
巣鴨 16—6 江東工
南野 25—12 南平
西 不明 石神井
城北 21—17 江北
目黒 28—10 光丘
永山 19—18 錦城
白鴎 16—12 武蔵丘
江戸川 31—5 富士
新宿 19—18 城西
科技学園 21—10 片倉
小平南 20—16 武蔵野北
荻窪 18—15 世田谷工
小岩 13—11 葛飾野
杉並工 キケン 南
府中東 19—5 秋川
東海大菅生 29—11 福生
大泉北 キケン 大泉
雪谷 キケン 足立
上野 25—11 蒲田
小金井北 22—6 田無工
南多摩 33—13 久留米
駒大高 31—12 深川
東 キケン 篠崎
日体荏原 26—7 駒込
東村山 25—4 武蔵村山
東大和南 22—9 館
学大附 26—16 早実
修徳 32—5 高島
日大二 36—19 淵江
桜美林 18—17 創価
八王子東 24—13 砂川
筑波大駒場 12—9 杉並
大森東 16—7 大崎

▼2回戦
府中 41—5 日野台
神代 18—12 羽村
青山学院 27—5 広尾
巣鴨 26—19 佼成
三鷹 24—14 南野
富士森 30—15 田無
早大学院 22—21 西
城北 キケン 目黒
調布北 33—11 山崎
永山 16—9 武蔵村山東
江戸川 キケン 白鴎
新宿 13—12 本所
昭和一 15—14 科技学園
小平南 31—8 北多摩
荻窪 17—11 安田学園
小岩 21—6 杉並工
府中東 21—9 日野
東海大菅生 15—13 府中西
専大附 28—11 大泉北
上野 18—10 雪谷
中大附 不明 小金井北
南多摩 26—15 小金井工
駒大高 23—15 武工大附
日体荏原 33—6 東
東村山 17—13 国立
久留米西 17—13 東大和南
学大附 20—10 青山
修徳 19—16 日大二
清瀬 21—15 桜美林
八王子東 28—15 保谷
筑波大駒場 19—11 桜水商
井草 16—12 大森東

▼3回戦
府中 20—19 神代
青山学院 14—9 巣鴨
三鷹 28—12 富士森
城北 28—15 早大学院
調布北 21—16 永山
新宿 22—15 江戸川
小平南 14—12 昭和一
小岩 16—16 荻窪 （3 PTC 1）
東海大菅生 15—11 府中東
上野 14—13 専大附
中大附 21—17 南多摩
日体荏原 26—8 駒大高
東村山 22—14 久留米西
修徳 16—15 学大附
八王子東 21—10 清瀬
筑波大駒場 14—7 井草

▼4回戦
府中 35—8 青山学院
三鷹 34—15 城北
新宿 23—18 調布北
小岩 26—13 小平南
東海大菅生 31—17 上野
日体荏原 30—16 中大附
修徳 21—14 東村山
八王子東 18—10 筑波大駒場

▼5回戦
東京 19—17 府中
三鷹 19—8 市川
両国 17—12 新宿
国分寺 25—6 小岩
成城 19—14 東海大菅生
農大一 17—15 日体荏原
拓大一 13—12 修徳
明星 24—17 八王子東

▼6回戦
東京 25—9 三鷹
国分寺 27—13 両国
成城 23—19 農大一
明星 21—18 拓大一

▼準決勝
東京 29—13 国分寺
明星 29—24 成城

▼3位決定戦
成城 18—12 国分寺

▼決勝
東京 21 〔9—9 / 12—9〕 18 明星

〈女子〉

▼1回戦
青山学院 7—0 西
武蔵野女 18—3 小金井北
学大附 不明 一商
目黒 14—13 大崎
砂川 15—7 福生
清瀬 11—5 南平
富士森 11—6 府中東
神代 9—2 調布北
南野 8—7 国立
小平 19—9 東海大菅生
石神井 13—1 上野
日大二 8—7 淵江
八王子東 17—7 保谷

武蔵野北 6―5 府中西
本所 11―9 農大一
武蔵 9―8 文華女
日野 28―2 館
桐朋女 25―3 羽村
農業 7―5 明泉鶴川
田無 4―3 日野台
富士 29―6 光丘
小岩 25―2 広尾
共立二 14―7 五商
府中 12―8 東大和
蒲田 16―9 白鴎
武蔵村山東 8―2 明星学園

▼2回戦
青山学院 12―3 豊多摩
武蔵野女 14―4 国分寺
学大附 17―5 目黒
砂川 14―12 清瀬
富士森 12―5 神代
小平 11―3 南野
石神井 17―6 日大二
八王子東 31―2 武蔵野北
本所 17―2 井草
東大和南 11―9 武蔵
日野 14―7 桐朋女
田無 13―2 農業
富士 22―5 小岩
府中 20―11 共立二
蒲田 9―6 江戸川
武蔵村山東 17―0 東村山

▼3回戦
武蔵野女 8―5 青山学院
学大附 9―7 砂川
小平 8―5 富士森
石神井 12―6 八王子東
本所 15―6 東大和南
日野 11―6 田無
富士 15―10 府中
蒲田 10―4 武蔵村山東

▼4回戦
江東商 11―7 武蔵野女
八雲 18―6 学大附
日体桜華 12―5 小平
文大杉並 14―6 石神井
佼成女 26―2 本所
日野 6―5 久留米西
菊華 17―12 富士
藤村女 29―6 蒲田

▼5回戦
江東商 18―16 八雲
文大杉並 15―12 日体桜華
佼成女 16―8 日野
菊華 15―9 藤村女

▼準決勝
文大杉並 16―10 江東商
佼成女 19―11 藤村女

▼3位決定戦
江東商 18―12 菊華

▼決勝
文大杉並 17（7―8、10―3）11 佼成女

北信越

北陸電力杯中学生大会

（5月4日／進明中、北陸電力体育館）

〈男子〉

▼1回戦
南星（富山）13―11 光陽（福井）
板津（石川）19―9 鳥居本（滋賀）
金津（福井）14―8 八代（富山）
森本（石川）16―13 香川一（香川）

▼準決勝
板津 18―12 南星
森本 16―7 金津

▼決勝
板津 18（8―4、10―6）10 森本

〈女子〉

▼1回戦
小杉（富山）15―5 明倫（福井）
豊中十（大阪）29―11 稲枝（滋賀）
西条（富山）17―11 御幸（石川）
大東（福井）16―9 香川一（香川）

▼準決勝
豊中十 13―8 小杉
大東 16―11 西条

▼決勝
豊中十 16（8―4、8―4）8 大東

福井県中学春季大会

（5月11、12日／進明中学体育館）

〈男子〉

▼1回戦
安居 24―13 栗野
大飯 19―7 灯明寺

▼2回戦
光陽 20―8 安居
川西 18―13 高浜
松陵 16―10 進明
金津 23―5 大飯

▼準決勝
光陽 23―8 川西
金津 15―10 松陵

▼決勝
金津 11（7―5、4―5）10 光陽

〈女子〉

▼リーグ戦
大東 18―1 森田
光陽 12―11 明倫
森田 18―4 鯖江
大東 18―6 明倫
光陽 34―2 鯖江
明倫 15―9 森田
大東 16―8 光陽
明倫 30―1 鯖江
光陽 12―10 森田
大東 26―4 鯖江

〔順位〕①大東②光陽③明倫

岐阜県高校

（5月19～26日／岐阜南高ほか）

〈男子〉

▼1回戦
岐阜南 16―15 斐太
各務原西 19―17 大垣南
大垣北 21―10 郡上

▼2回戦
市岐阜商 18―9 岐阜南
中京商 23―22 加納
岐阜東 21―8 各務原西
岐山 19―14 大垣工

県岐阜商 26－13 大垣北
岐西工 16－15 可児
▼3回戦
市岐阜商 13－12 中京商
岐阜東 13－11 岐山
県岐阜商 10－7 岐西工
▼決勝リーグ
市岐阜商 10－10 岐阜東
市岐阜商 12－11 県岐阜商
県岐阜商 15－5 岐阜東
〔順位〕①市岐阜商②県岐阜商③岐阜東

〈女子〉
▼1回戦
瑞浪 25－14 池田
各務原西 14－10 各務原
羽島 16－11 斐太
▼2回戦
養老女商 28－2 瑞浪
郡上 27－9 大垣東
富田女 20－8 各務原西
益田 12－11 大垣女
高山 33－11 羽島
県岐阜商 21－10 加納
▼3回戦
養老女商 15－9 郡上
富田女 17－5 益田
高山 14－13 県岐阜商
▼決勝リーグ
富田女 13－9 養老女商
富田女 12－10 高山
高山 18－17 養老女商
〔順位〕①富田女②高山③養老女商

近畿

第28回滋賀県中学春季大会
（5月24日／守山南中）

〈男子〉
▼準決勝
八幡 24－7 鳥居本
彦根南 18－10 野洲北
▼決勝
鳥居本 21（11－3、10－8）11 野洲北

〈女子〉
▼準決勝
多賀 24－9 鳥居本
能登川 15－6 稲枝
▼決勝
多賀 12（4－2、8－2）4 能登川

近畿高校奈良県予選
（4月27日～5月3日／生駒市総合公園体育館）

〈男子〉
▼1回戦
橿原 16－9 広陵
一条 16－13 片桐
添上 10－7 高田東
▼2回戦
東大寺 17－16 橿原
正強 18－13 高円
富雄 24－8 上牧
生駒 15－10 一条
信貴ヶ丘 18－4 天理
郡山 14－7 斑鳩
奈良 31－3 奈良工
添上 13－11 畝傍
▼3回戦
正強 21－4 東大寺
生駒 15－8 富雄
郡山 13－4 信貴ヶ丘
添上 15－14 奈良
▼準決勝
正強 17－5 生駒
添上 10－7 郡山
▼3位決定戦
生駒 12－8 郡山
▼決勝
正強 16（6－3、10－8）11 添上

〈女子〉
▼1回戦
添上 20－4 短大付
一条 7－6 白藤
郡山 12－4 橿原
富雄 9－2 生駒
▼準決勝
添上 31－0 一条
富雄 13－3 郡山
▼3位決定戦
郡山 12－7 一条
▼決勝
添上 12（5－1、7－0）1 富雄

滋賀県高校春季総体
（5月14～16日／彦根商高ほか）

〈男子〉
▼予選リーグA組
八幡工 25－5 比叡山
八幡工 15－5 能登川
能登川 19－5 比叡山
▼同B組
野洲 24－7 彦根西
彦根工 22－10 八日市
野洲 24－7 八日市
野洲 21－13 彦根工
彦根工 30－7 彦根西
八日市 22－5 彦根西
▼同C組
彦根東 10－10 高島
安曇川 17－11 高島
彦根東 14－9 安曇川
▼同D組
河瀬 21－7 米原
長浜北 15－8 米原
長浜 15－8 河瀬
▼決勝トーナメント1回戦
安曇川 12－11 八幡工
野洲 17－11 河瀬
彦根東 21－5 能登川
長浜北 25－16 彦根工
▼準決勝
野洲 20－14 安曇川
長浜北 20－14 彦根東
▼決勝
長浜北 20（10－9、10－7）16 野洲

〈女子〉
▼予選リーグA組
彦根商 35－1 安曇川
安曇川 14－9 高島
彦根商 31－1 高島
▼同B組
河瀬 25－2 八幡商
河瀬 14－11 彦根商
彦根西 32－7 八幡商
▼同C組
彦根東 15－7 米原
米原 33－2 能登川
彦根東 19－3 能登川
▼同D組
八日市 30－0 大津商
守山女 45－2 大津商
守山女 15－4 八日市
▼決勝トーナメント1回戦
彦根商 39－7 米原
河瀬 10－4 八日市
彦根東 19－12 安曇川
守山女 20－14 彦根西
▼準決勝
彦根商 21－8 河瀬
彦根東 14－12 守山女
▼決勝
彦根商 24（11－3、13－8）11 彦根東

第44回京都府高校総体
（5月11～19日／大原野グラウンド）

〈男子上級の部〉
▼Aゾーン1回戦
洛水 12－0 鴨沂
伏見工 36－3 塔南
▼2回戦
洛水 14－13 桂
北嵯峨 31－4 洛東
東宇治 22－5 西宇治
京都学園 13－12 伏見工
▼準決勝
洛水 11－9 北嵯峨
東宇治 18－5 京都学園
▼決勝

洛水 16－12 東宇治
▼Bゾーン1回戦
桃山 22－8 木津
田辺 16－5 成章
▼2回戦
東山 31－5 桃山
山城 24－4 宇治
東稜 14－8 城陽
田辺 14－10 日吉丘
▼準決勝
東山 26－3 山城
東稜 11－10 田辺
▼決勝
東山 27－10 東稜
▼Cゾーン1回戦
京都西 20－10 八幡
▼2回戦
洛北 19－11 京都西
堀川 19－8 西乙訓
洛星 18－12 南八幡
乙訓 22－1 洛西
▼準決勝
洛北 25－12 堀川
乙訓 25－10 洛星
▼決勝
洛北 16－14 乙訓
▼Dゾーン1回戦
久御山 15－3 両洋
▼2回戦
大谷 15－7 久御山
向陽 15－8 嵯峨野
平安 31－8 洛陽工
城南 24－6 同志社
▼準決勝
大谷 16－10 向陽
城南 16－7 平安
▼決勝
大谷 17－13 城南

〈男子下級の部〉

▼Aゾーン1回戦
京都西 18－6 久御山
京都学園 12－7 伏見工
東宇治 23－0 洛西
洛星 11－2 木津
▼2回戦
京都西 9－8 嵯峨野
京都学園 10－6 平安
東宇治 19－4 東稜
洛星 12－5 山城
▼準決勝
京都西 11－6 京都学園
洛星 6－3 東宇治
▼決勝
京都西 11－10 洛星
▼Bゾーン1回戦
堀川 14－1 北稜
両洋 8－7 大谷
向陽 11－9 洛北
桂 10－8 東山
北嵯峨 11－8 乙訓
▼2回戦
堀川 10－1 桃山
向陽 10－7 両洋
桂 17－12 洛水
西宇治 17－6 北嵯峨
▼準決勝
堀川 7－5 向陽
桂 19－9 西宇治
▼決勝
桂 14－5 堀川

〈女子上級の部〉

▼Aゾーン1回戦
洛西 24－5 久御山
西山 12－8 塔南
洛水 25－3 鴨沂
▼2回戦
東宇治 22－7 洛西
洛水 29－8 西山
▼決勝
東宇治 17－9 洛水
▼Bゾーン1回戦
北嵯峨 11－7 山城
城南 12－8 東稜
乙訓 16－6 城陽
▼2回戦
向陽 13－10 北嵯峨
城南 12－12 乙訓
抽選
▼決勝
向陽 17－10 城南
▼Cゾーン1回戦
南八幡 26－2 洛東
明徳商 17－5 田辺
西宇治 18－3 府立商
▼2回戦
洛北 14－4 南八幡
明徳商 9－8 西宇治
▼決勝
洛北 21－9 明徳商
▼Dゾーン1回戦
北稜 16－4 精華
西乙訓 6－6 日吉丘
抽選
桂 18－5 桃山
▼2回戦
北稜 10－9 光華
桂 22－2 西乙訓
▼決勝
桂 19－5 北稜

〈女子下級の部〉

▼1回戦
北嵯峨 21－4 東稜
乙訓 1－1 京都学園
抽選
向陽 26－4 桃山
▼2回戦
京都女 12－5 北嵯峨
西宇治 18－0 南八幡
東宇治 13－2 乙訓
向陽 6－5 洛北
▼準決勝
京都女 12－8 西宇治
向陽 10－2 東宇治
▼決勝
向陽 9－6 京都女

中国

第42回中国高校選手権

（5月10～12日／下関市体育館ほか）

〈男子〉

▼1回戦
下松工（山口）23－7 境（鳥取）
東岡山工（岡山）22－8 松江工（島根）
境港工（鳥取）17－16 岩国（山口）
総社（岡山）13－10 修道（広島）
松江東（島根）22－14 米子東（鳥取）

平成3年度 第1回指導方法委員会議事録

委員会だより

【日時】平成3年6月12日(土) 17時30分～19時15分

【場所】日本ハンドボール協会事務局

【出席者】本田娟一、大西武三、平岡秀雄、村松 誠、飯田信行、青木宏治、清水口真澄、岡本研二、江成元伸、笹倉清則、芝 重治、清水宣雄、杉森弘幸

▼**議題1** ハンドボール教本について

6月29～30日、日本女子体育大学宿泊所において合宿検討会を行い、編集会議とすることとした。

▼**議題2** アジア選手権大会のゲームデーター速報用のコンピューターを早急に購入することが提案され、了承された。

▼**議題3** IHFトレーナー、レフェリーシンポジュームに参加した平岡委員より報告があった。報告書を作成するために、翻訳の分担は大西委員長に一任することとし、早急に作業にかかることとした。

▼**議題4** 本年度事業と予算の報告があった。

▼**議題5** 江成委員に平成3年度コーチシンポジュームの開催の立案が要請された。

▼**議題6** スポーツ指導員養成講習会が愛知県、山梨県で開催されたことが報告された。

▼**議題7** 公認指導者移行措置について

本田顧問より特別移行措置に関して、条件を満たしていない指導者についてはコーチからC級コーチに移行するのみとする旨の報告があり、了承された。

▼**議題8** 平成2年度C級コーチ養成講習会実施結果の報告

修了者の報告と欠席者の扱いを検討した。欠席者は保留とし、担当者が補講レポート、補習実習を課すことが了承された。

徳山(山口) 22－11 呉昭和(広島)
尾道(広島) 29－9 倉敷工(岡山)
岩国工(山口) 18－7 江津(島根)

▼2回戦
下松工 20－11 東岡山工
境港工 21－15 総社
徳山 26－15 松江東
尾道 19－13 岩国工

▼準決勝
下松工 20－10 境港工
尾道 20－13 徳山

▼決勝
下松工 19 (11－6, 8－8) 14 尾道

〈女子〉

▼1回戦
岩国商(山口) 20－15 玉野光南(岡山)
境(鳥取) 28－10 江津(島根)
西大寺(岡山) 26－12 広島第一女商(広島)
徳山(山口) 17－6 米子南商(鳥取)
華陵(山口) 22－3 米子東(鳥取)
松江市女(島根) 21－6 安芸南(広島)
徳山商(山口) 38－4 浜田商(島根)
山陽女(広島) 17－3 総社(岡山)

▼2回戦
岩国商 15－6 境
西大寺 15－13 徳山
華陵 24－8 松江市女
山陽女 22－7 徳山商

▼準決勝
岩国商 20－16 西大寺
山陽女 19－12 華陵

▼決勝
山陽女 20 (11－7, 9－3) 10 岩国商

九州

九州高校福岡県予選

(4月28、29日／久留米工大ほか)

〈男子〉

▼1回戦
久工大附 32－9 門司
泰星 13－8 福岡西陵
春日 10－7 筑紫丘
香椎 21－8 小倉工
若松 18－17 宗像
西南 15－13 武蔵台
福岡 27－5 田川工
九州産 20－16 三池

▼2回戦
久工大附 26－3 泰星
香椎 20－6 春日
若松 17－10 西南
九州産 17－7 福岡

▼準決勝
久工大附 26－3 香椎
九州産 30－14 若松

▼3位決定戦
若松 19－18 香椎

▼決勝
久工大附 17 (9－6, 4－7, 1－0, 3－0) 13 九州産

〈女子〉

▼1回戦
春日 17－10 三井
武蔵台 13－7 宗像
浮羽 14－6 須恵
福岡 16－4 小倉商

▼2回戦
筑紫女 17－7 春日
新宮 13－10 武蔵台
香椎 27－10 浮羽
九州女 14－5 福岡

▼準決勝
筑紫女 23－11 新宮
九州女 20－9 香椎

▼3位決定戦
香椎 16－15 新宮

▼決勝
筑紫女 19 (11－4, 8－4) 8 九州女



(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第三一〇号
昭和四十年六月十七日 第三種郵便物認可
平成三年六月二十六日 印刷
平成三年七月一日 発行
東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表 三四八一―二三六一
振替 東京 六―五八三四八番
編集兼発行人 安藤純光
定価三百五拾円
(年間購読料 三千三百円)

